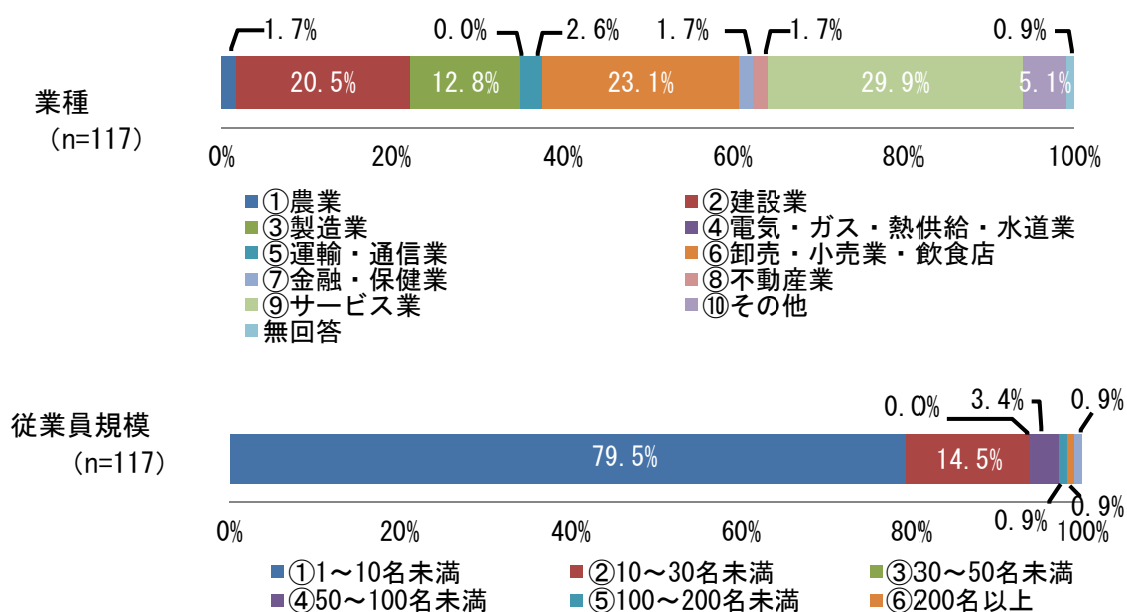

事業所アンケートの集計結果

問1 業種、 問2 従業員規模

- ◆業種は、「⑨サービス業」が29.9%と最も多く、次いで「⑥卸売・小売業・飲食店」23.1%、「②建設業」20.5%の順となっている。
- ◆従業員規模は、「①1名～10名未満」の事業所が79.5%と最も多く、回答の大半を占めている。

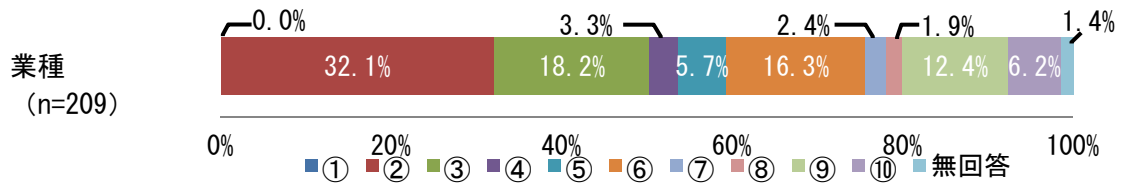


	合計		① 11 0 名 未 満	② 31 0 名 未 満	③ 53 0 名 未 満	④ 15 0 名 未 満	⑤ 21 0 名 未 満	⑥ 2 0 名 未 満	無 回 答
	割合	件数							
合計	1.7%	117	79.5%	14.5%	0.0%	3.4%	0.9%	0.9%	0.9%
① 農業	1.7%	2		2					
② 建設業	20.5%	24	19	5					
③ 製造業	12.8%	15	9	5		1			
④ 電気・ガス・熱供給・水道業	0.0%								
⑤ 運輸・通信業	2.6%	3	2	1					
⑥ 卸売・小売業・飲食店	23.1%	27	21	3		1	1	1	
⑦ 金融・保健業	1.7%	2	2						
⑧ 不動産業	1.7%	2	2						
⑨ サービス業	29.9%	35	33	1					1
⑩ その他	5.1%	6	4			2			
無回答	0.9%	1	1						

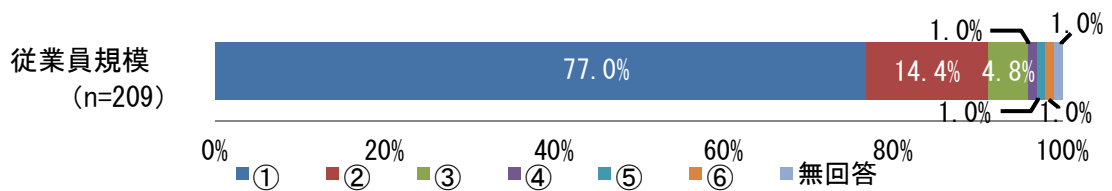
「⑩その他」の業種・・・病院、医療、福祉

◆ 参考 前回の調査結果

(H20 年度実施)



	① 農業	② 建設業	③ 製造業	④ 電気・ガス・熱供給・水道業	⑤ 運輸・通信業	⑥ 卸売・小売業	⑦ 金融・保険業	⑧ 不動産業	⑨ サービス業	⑩ その他	無回答	合計
件数	0	67	38	7	12	34	5	4	26	13	3	209
割合	0.0%	32.1%	18.2%	3.3%	5.7%	16.3%	2.4%	1.9%	12.4%	6.2%	1.4%	

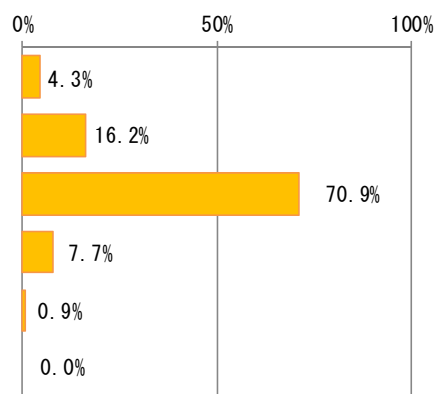


	① 11名未満	② 13名未満	③ 15名未満	④ 17名未満	⑤ 19名未満	⑥ 20名以上	無回答	合計
件数	161	30	10	2	2	2	2	209
割合	77.0%	14.4%	4.8%	1.0%	1.0%	1.0%	1.0%	

問3 経済活動と環境保全の関係

- ◆ 「③経済活動を継続していくためには、環境保全にも一定の配慮をする」が70.9%と最も多く、「④企業の社会的な立場を考え、環境保全に最善を尽くしている」と合わせると約8割となり、ほとんどの事業者が環境保全を優先していることが分かった。
- ◆ 前回調査と比較し、「④企業の社会的な立場を考え、環境保全に最善を尽くしている」の回答割合は減ってしまったが、「③経済活動を継続していくためには、環境保全にも一定の配慮をする」を合わせた割合は、11.6ポイント増加しており、環境保全に対する意識が向上しているといえる。

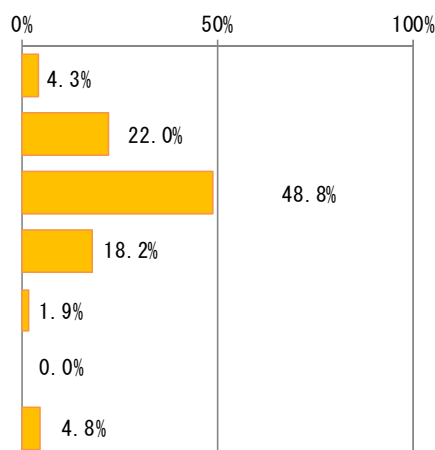
	件数	割合
① 事業所存続のために、経済活動を優先させる	5	4.3%
② 環境保全も大切だと思うが、どちらかというとなら経済活動を優先させる	19	16.2%
③ 経済活動を継続していくためには、環境保全にも一定の配慮をする	83	70.9%
④ 企業の社会的な立場を考え、環境保全に最善を尽くしている	9	7.7%
⑤ 環境保全に関わる新たな技術開発などを今後の経営に活かしたい	1	0.9%
⑥ その他	0	0.0%
合計	117	



◆ 参考 前回の調査結果

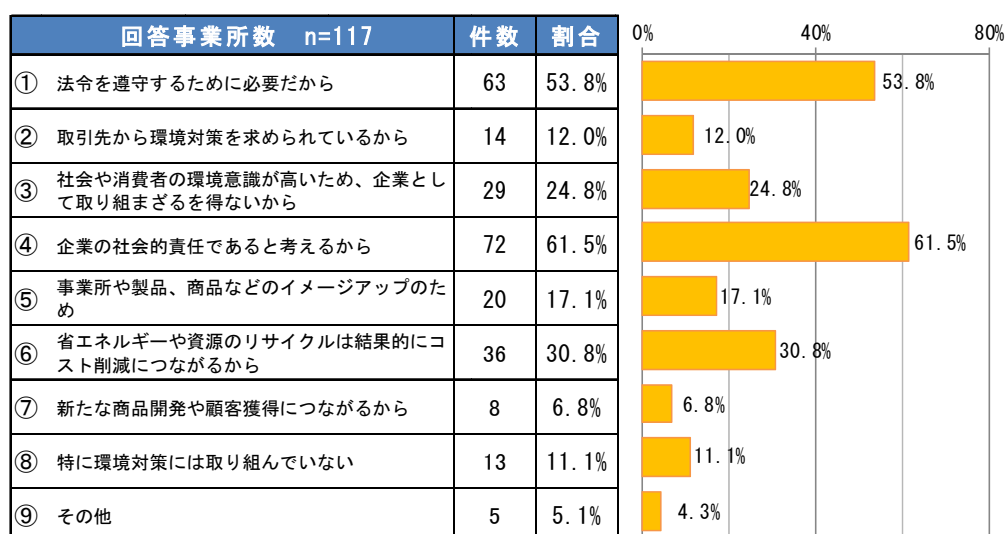
	件数	割合
① 事業所存続のために、経済活動を優先させる	9	4.3%
② 環境保全も大切だと思うが、どちらかというとなら経済活動を優先させる	46	22.0%
③ 経済活動を継続していくためには、環境保全にも一定の配慮をする	102	48.8%
④ 企業の社会的な立場を考え、環境保全に最善を尽くしている	38	18.2%
⑤ 環境保全に関わる新たな技術開発などを今後の経営に活かしたい	4	1.9%
⑥ その他	0	0.0%
無回答	10	4.8%
合計	209	

(H20 年度実施)



問4 環境対策に取り組む理由

- ◆ 「④企業の社会的責任であると考えるから」が 61.5%と最も多く、前回調査に比べて 11.7 ポイント上昇している。
- ◆ 前回調査と比較し、「省エネルギーや資源のリサイクルは結果的にコスト削減につながるから」は減少している一方で、取引先や社会・消費者等、他者との関係性を重視した理由が増加している。

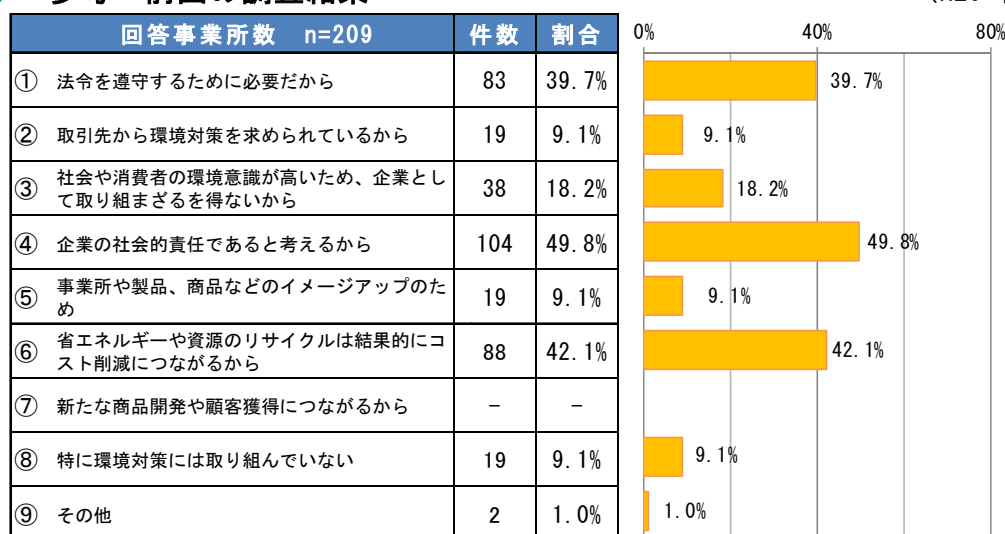


「⑨その他」の回答

- ・ これから生きる子供たちの未来のため。将来、未来に個人的に必要と感じるから
- ・ 施設利用者の生活を支えることが業務のため、環境対策が重要であるから。

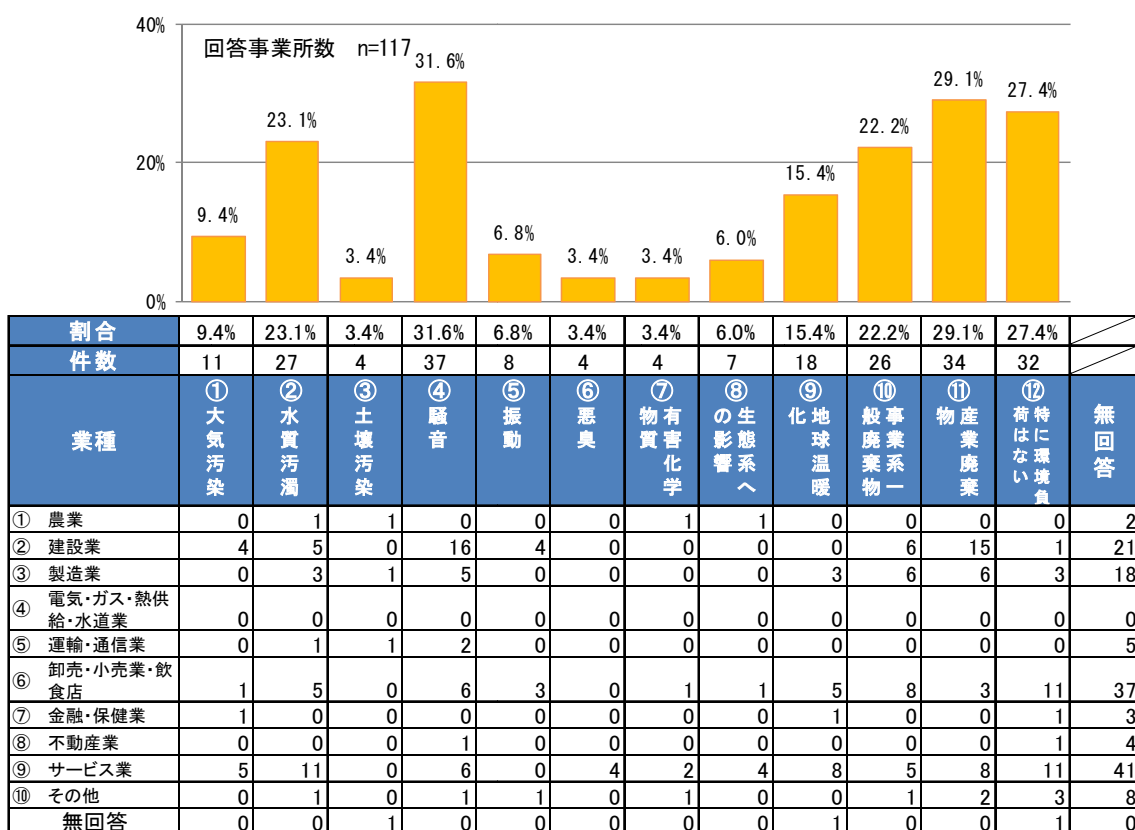
◆ 参考 前回の調査結果

(H20 年度実施)



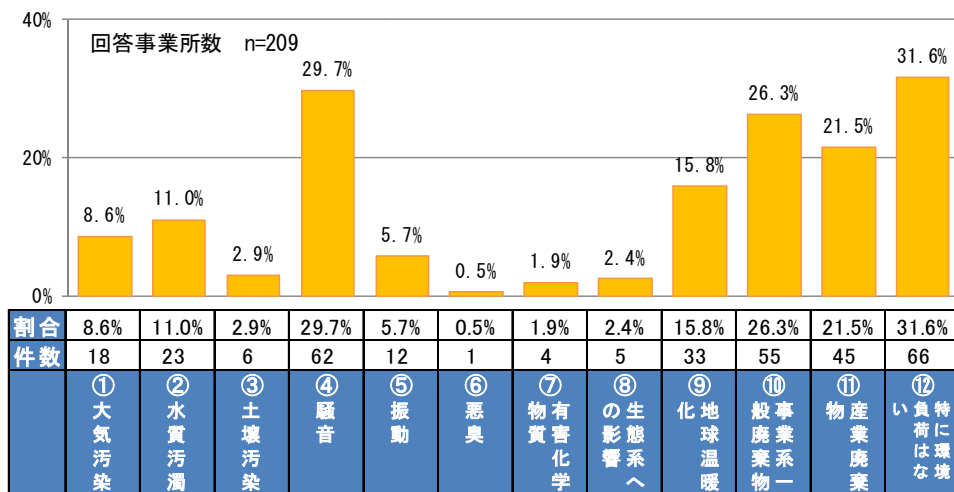
問5 企業活動による環境負荷

- ◆前回調査に引き続き、「④騒音」が31.6%と最も多く、次いで「⑪産業廃棄物」「⑩事業系一般廃棄物」が続いている。
- ◆業種別にみると、「②建設業」において「④騒音」「⑪産業廃棄物」が上位に挙げられている。



◆ 参考 前回の調査結果

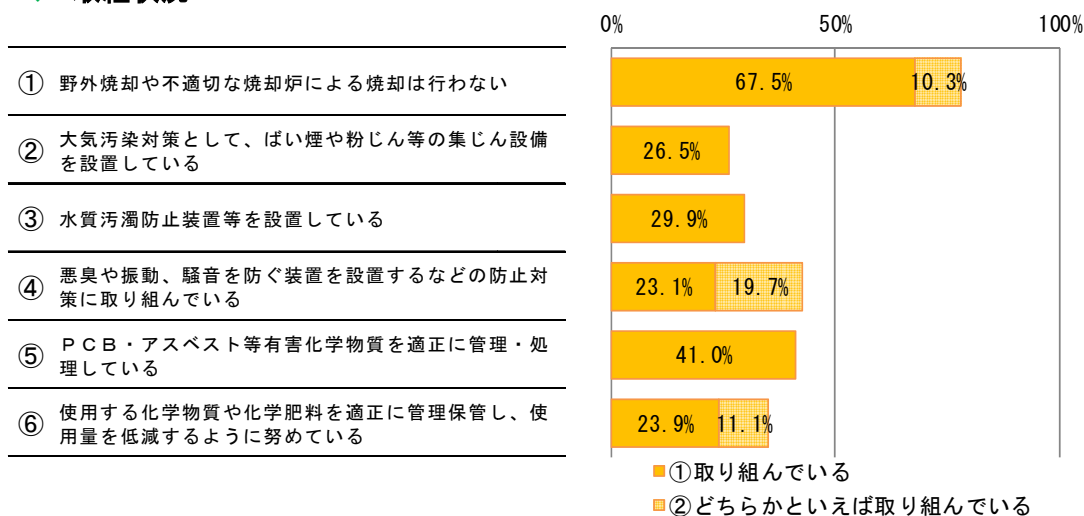
(H20 年度実施)



問6 行動指針に基づく取組状況 【公害防止対策】

- ◆ 「①野外焼却等は行わない」割合が約80%となっているのを除き、他の項目では約30~40%と取組割合が低い結果となった。しかし、取り組まない理由をみると、各項目において「⑦取り組む機会がない・該当しない」が多く、防止対策を講じる必要のない企業活動が多いため取組状況が低水準となっていると思われる。これらに加え無回答の事業所を分母から控除し再計算すると、取り組んでいる事業所の割合は、約55~95%にまで上昇した。
- ◆ 問5で「④騒音」「⑤振動」「⑥悪臭」の環境負荷がある回答した事業所（49件）のうち32件が「④悪臭や振動、騒音防止対策に取り組んでいる」と回答しており、約35%が、環境負荷が高いと自覚があるにもかかわらず対策を講じていない結果となった。同様に、水質汚濁対策についても、同じく約35%が対策を講じていない結果となった。

◆ 取組状況



◆ 取り組まない理由（上位3つ）

① 野外焼却や不適切な焼却炉による焼却は行わない			② 大気汚染対策として、ばい煙や粉じん等の集じん設備を設置している		
14件	⑦ 取り組む機会がない・該当しない	n=7	61件	⑦ 取り組む機会がない・該当しない	n=42
	⑨ 理由はない・特に気にかけていない	n=3		③ 費用がかかる	n=6
	② 従業員の理解・協力が得られない	n=2		⑨ 理由はない・特に気にかけていない	n=5

↑「取り組んでいない」又は「どちらかといえば取り組んでいない」と回答した件数

③ 水質汚濁防止装置等を設置している		
56 件	⑦ 取り組む機会がない・該当しない	n=35
	⑧ 方法がわからない・情報や知識が足りない	n=7
	③ 費用がかかる	n=5

④ 悪臭や振動、騒音を防ぐ装置を設置するなどの防止対策に取り組んでいる		
46 件	⑦ 取り組む機会がない・該当しない	n=28
	⑨ 理由はない・特に気にかけていない	n=6
	③ 費用がかかる	n=5

⑤ PCB・アスベスト等有害化学物質を適正に管理・処理している		
51 件	⑦ 取り組む機会がない・該当しない	n=39
	⑨ 理由はない・特に気にかけていない	n=6

⑥ 使用する化学物質や化学肥料を適正に管理保管し、使用量を低減するように努めている		
57 件	⑦ 取り組む機会がない・該当しない	n=46
	⑨ 理由はない・特に気にかけていない	n=5

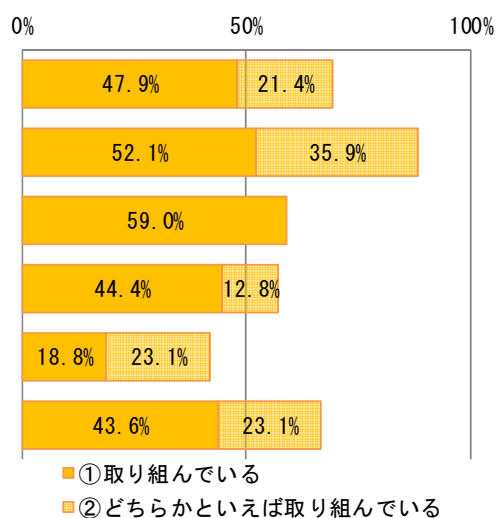
取組内容	集計	取組状況					取り組まない理由											
		① 取り組んでいる	② どちらかといえば取	③ どちらかといえ取	④ 取り組んでいない	⑤ 無回答	① 利便性が悪い	② 従業員の理解・協力が得られない	③ 費用がかかる	④ 手間や時間がかかる	⑤ 利益につながらない	⑥ 必要だと思わない・効果に疑問がある	⑦ 取り組む機会がない	⑧ 情報や知識が足りない	⑨ 理由はない・特に気にかけていない	⑩ その他		
① 野外焼却や不適切な焼却炉による焼却は行わない	割合	67.5%	10.3%	2.6%	12.0%	7.7%												
	件数	79	12	3	14	9	2			1		7			3		1	
② 大気汚染対策として、ばい煙や粉じん等の集じん設備を設置している	割合	26.5%	0.0%	0.0%	58.1%	15.4%												
	件数	31	0	0	68	18			6	1		2	42	2	5		3	
③ 水質汚濁防止装置等を設置している	割合	29.9%	0.0%	0.0%	56.4%	13.7%												
	件数	35	0	0	66	16			5	1		1	35	7	4		3	
④ 悪臭や振動、騒音を防ぐ装置を設置するなどの防止対策に取り組んでいる	割合	23.1%	19.7%	5.1%	38.5%	13.7%												
	件数	27	23	6	45	16			5			1	28	3	6		3	
⑤ PCB・アスベスト等有害化学物質を適正に管理・処理している	割合	41.0%	0.0%	0.0%	45.3%	13.7%												
	件数	48	0	0	53	16			1				39	1	6		4	
⑥ 使用する化学物質や化学肥料を適正に管理保管し、使用量を低減するように努めている	割合	23.9%	11.1%	3.4%	46.2%	15.4%												
	件数	28	13	4	54	18			1				46	1	5		4	

問6 行動指針に基づく取組状況 【水・地下水・湧水・河川の保全】

- ◆約90%の事業所が、「②節水」に取り組んでいる。また、約70%の事業所において「⑥河川や用水等の清掃・美化活動に参加」しているとの回答があった。
- ◆「③下水道の接続、合併浄化槽の設置」「④使用水量の記録や排水する水路、汚水マスの点検」「⑤雨水の地下浸透」の取組状況は約40%~60%と、低水準となっている。

◆ 取組状況

① 融雪に地下水は使用しない
② 節水を心がけている
③ 下水道に接続している又は、合併処理浄化槽を設置している
④ 使用水量の記録や排水する水路や汚水マスの点検をしている
⑤ 敷地内緑化や雨水地下浸透設備の設置など、雨水の地下浸透に取り組んでいる
⑥ 河川や用水など地域の清掃活動や美化活動に参加している



◆ 取り組まない理由（上位3つ）

① 融雪に地下水は使用しない		
23件	① 利便さ・快適さが損なわれる	n=6
	④ 手間や時間がかかる	n=4
	⑨ 理由はない・特に気にかけていない	n=4
	③ 費用がかかる	n=3

② 節水を心がけている		
6件	⑤ 利益につながらない	n=2
	⑨ 理由はない・特に気にかけていない	n=2

34 件	③ 下水道に接続している又は、合併処理浄化槽を設置している	
	③ 費用がかかる	n=14
	⑦ 取り組む機会がない・該当しない	n=8
	⑨ 理由はない・特に気にかけていない	n=5

31 件	④ 使用水量の記録や排水する水路や汚水マスの点検をしている	
	⑦ 取り組む機会がない・該当しない	n=11
	⑨ 理由はない・特に気にかけていない	n=10
	⑧ 方法がわからない・情報や知識が足りない	n=4

49 件	⑤ 敷地内緑化や雨水地下浸透設備の設置など、雨水の地下浸透に取り組んでいる	
	⑦ 取り組む機会がない・該当しない	n=18
	⑨ 理由はない・特に気にかけていない	n=13
	⑧ 方法がわからない・情報や知識が足りない	n=8

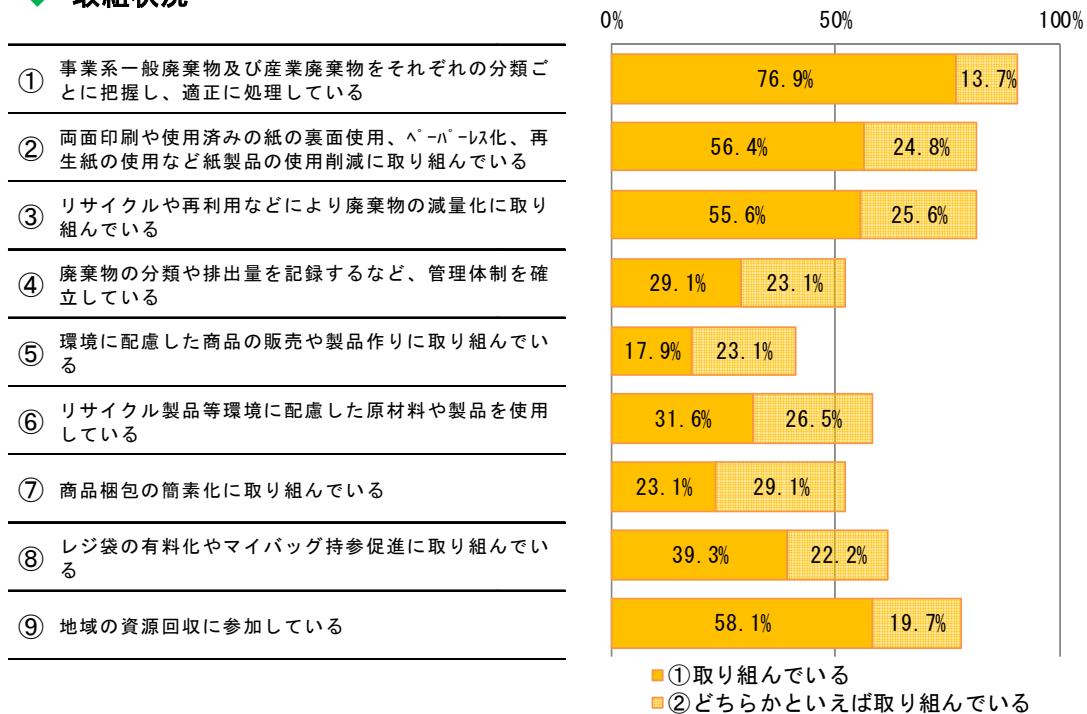
27 件	⑥ 河川や用水など地域の清掃活動や美化活動に参加している	
	⑦ 取り組む機会がない・該当しない	n=15
	⑨ 理由はない・特に気にかけていない	n=4
	⑧ 方法がわからない・情報や知識が足りない	n=2

取組内容	集計	取組状況					取り組まない理由										
		① 取り組んでいる	② りどころかといえ取	③ りどころかといえ取	④ 取り組んでいない	⑤ 無回答	① 利便性が悪い	② 従業員の理解・協力が得られない	③ 費用がかかる	④ 手間や時間がかかる	⑤ 利益につながらない	⑥ 効果に疑問がある	⑦ 取り組む機会がない	⑧ 情報や知識が足りない	⑨ 理由はない・特に気にかけていない	⑩ その他	
① 融雪に地下水は使用しない	割合	47.9%	21.4%	13.7%	11.1%	6.0%											
	件数	56	25	16	13	7	6		3	4	1	1	2	1	4	1	
② 節水を心がけている	割合	52.1%	35.9%	5.1%	2.6%	4.3%											
	件数	61	42	6	3	5	1				2		1	2			
③ 下水道に接続している又は、合併処理浄化槽を設置している	割合	59.0%	0.0%	0.0%	33.3%	7.7%											
	件数	69	0	0	39	9			14		1	1	8	1	5	4	
④ 使用水量の記録や排水する水路や汚水マスの点検をしている	割合	44.4%	12.8%	8.5%	24.8%	9.4%											
	件数	52	15	10	29	11			2			2	11	4	10	2	
⑤ 敷地内緑化や雨水地下浸透設備の設置など、雨水の地下浸透に取り組んでいる	割合	18.8%	23.1%	11.1%	38.5%	8.5%											
	件数	22	27	13	45	10			6		2		18	8	13	2	
⑥ 河川や用水など地域の清掃活動や美化活動に参加している	割合	43.6%	23.1%	6.8%	19.7%	6.8%											
	件数	51	27	8	23	8				1		1	15	2	4	4	

問6 行動指針に基づく取組状況 【ごみ減量・循環型社会構築】

- ◆ 「①事業系一般廃棄物及び産業廃棄物の適正処理」「②紙製品の使用削減」「③リサイクル等による廃棄物の減少化」「⑨地域の資源回収参加」については、約80～90%の事業所において取り組んでいる。
- ◆ 「④廃棄物の分類や排出量を記録するなど、管理体制を確立している」は50%を超える程度となっており、あまり取り組まれていない。

◆ 取組状況



◆ 取り組まない理由（上位3つ）

取組項目	理由	件数
① 事業系一般廃棄物及び産業廃棄物をそれぞれの分類ごとに把握し、適正に処理している	⑦ 取り組む機会がない・該当しない	n=2
② 両面印刷や使用済みの紙の裏面使用、ペーパーレス化、再生紙の使用など紙製品の使用削減に取り組んでいる	⑦ 取り組む機会がない・該当しない	n=5
	⑨ 理由はない・特に気にかけていない	n=4

↑「取り組んでいない」又は「どちらかといえば取り組んでいない」と回答した件数

取組項目	理由	件数
③ リサイクルや再利用などにより廃棄物の減量化に取り組んでいる	⑦ 取り組む機会がない・該当しない	n=8
	③ 費用がかかる	n=2
	⑨ 理由はない・特に気にかけていない	n=2
④ 廃棄物の分類や排出量を記録するなど、管理体制を確立している	⑦ 取り組む機会がない・該当しない	n=15
	⑨ 理由はない・特に気にかけていない	n=10
	④ 手間や時間がかかる	n=5

48 件	⑤ 環境に配慮した商品の販売や製品作りに取り組んでいる	
	⑦ 取り組む機会がない・該当しない	n=33
	⑨ 理由はない・特に気にかけていない	n=5

34 件	⑥ リサイクル製品等環境に配慮した原材料や製品を使用している	
	⑦ 取り組む機会がない・該当しない	n=19
	⑧ 方法がわからない・情報や知識が足りない	n=5

42 件	⑦ 商品梱包の簡素化に取り組んでいる	
	⑦ 取り組む機会がない・該当しない	n=29
	⑥ 必要だと思わない・効果に疑問がある	n=3
	⑨ 理由はない・特に気にかけていない	n=3

34 件	⑧ レジ袋の有料化やマイバッグ持参促進に取り組んでいる	
	⑦ 取り組む機会がない・該当しない	n=20
	⑨ 理由はない・特に気にかけていない	n=5
	⑥ 必要だと思わない・効果に疑問がある	n=3

17 件	⑨ 地域の資源回収に参加している	
	⑦ 取り組む機会がない・該当しない	n=10
	⑧ 方法がわからない・情報や知識が足りない	n=3

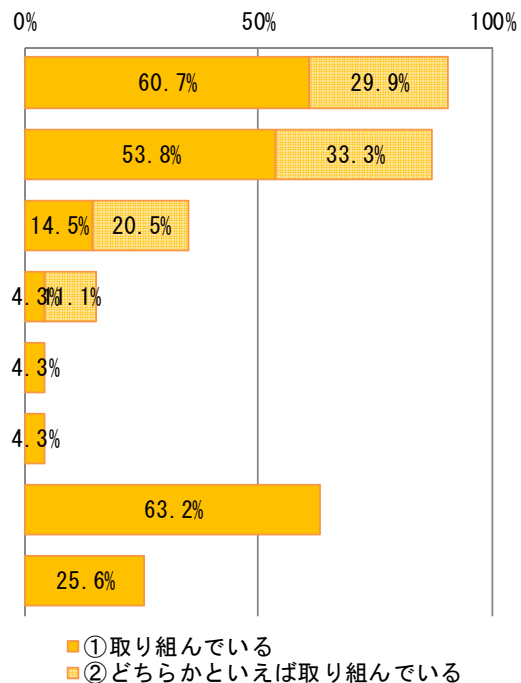
取組内容	集計	取組状況					取り組まない理由													
		① 取り組んでいる	② どちらかといえば取	③ どちらかといえ取	④ 取り組んでいない	⑤ 無回答	① 利便さ・快適さが損	② 従業員の理解・協力が得られない	③ 費用がかかる	④ 手間や時間がかかる	⑤ 利益につながらない	⑥ 必要だと思わない・効果に疑問がある	⑦ 取り組む機会がない	⑧ 情報や知識が足りない	⑨ 方法がわからない・特に気にかけていない	⑩ その他				
		① 事業系一般廃棄物及び産業廃棄物をそれぞれの分類ごとに把握し、適正に処理している	割合	76.9%	13.7%	2.6%	1.7%	5.1%												
	件数	90	16	3	2	6			1				2							
② 両面印刷や使用済みの紙の裏面使用、ペーパーレス化、再生紙の使用など紙製品の使用削減に取り組んでいる	割合	56.4%	24.8%	4.3%	8.5%	6.0%		1												
	件数	66	29	5	10	7						1	5					4		1
③ リサイクルや再利用などにより廃棄物の減量化に取り組んでいる	割合	55.6%	25.6%	5.1%	8.5%	5.1%														
	件数	65	30	6	10	6			2	1			8					2		
④ 廃棄物の分類や排出量を記録するなど、管理体制を確立している	割合	29.1%	23.1%	10.3%	28.2%	9.4%														
	件数	34	27	12	33	11			1	5			4	15				10		2
⑤ 環境に配慮した商品の販売や製品作りに取り組んでいる	割合	17.9%	23.1%	10.3%	35.0%	13.7%														
	件数	21	27	12	41	16				2	1		2	33		2	5			3
⑥ リサイクル製品等環境に配慮した原材料や製品を使用している	割合	31.6%	26.5%	12.0%	22.2%	7.7%														
	件数	37	31	14	26	9			1	1	1		19	5		4				3
⑦ 商品梱包の簡素化に取り組んでいる	割合	23.1%	29.1%	7.7%	30.8%	9.4%														
	件数	27	34	9	36	11														
⑧ レジ袋の有料化やマイバッグ持参促進に取り組んでいる	割合	39.3%	22.2%	6.8%	24.8%	6.8%														
	件数	46	26	8	29	8														
⑨ 地域の資源回収に参加している	割合	58.1%	19.7%	1.7%	15.4%	5.1%														
	件数	68	23	2	18	6							10	3		2				2

問6 行動指針に基づく取組状況 【地球温暖化防止・省エネルギーの推進】

- ◆ 「①節電」や「②エコドライブ」といった心がけ次第でできることは取り組んでいるが、太陽光発電設置や低公害車導入といった費用がかかる取組は非常に低い水準となっている。
- ◆ 「⑤太陽光発電等の導入」「余剰エネルギー利用」に取り組まない理由に、「③費用がかかる」のほか「⑧方法が分からない・情報や知識が足りない」という回答があり、情報発信、普及啓発の取組が求められていると思われる。

◆ 取組状況

冷暖房の適温設定や unnecessaryな照明の消灯など、節電を心がけている
アイドリングや急発進をしないなどのエコドライブを実践している
自転車や公共交通機関を積極的に利用している
ノーマイカー運動（従業員のマイカー出退勤を控える運動）に取り組んでいる
太陽光発電など、再生可能エネルギーを導入・活用している
廃熱などの余剰エネルギーを利用している
電化製品や機器は省資源・省エネルギー型のものを導入している
ハイブリッドカーなどの低公害車を導入している



◆ 取り組まない理由（上位3つ）

① 7件	① 冷暖房の適温設定や unnecessaryな照明の消灯など、節電を心がけている	
	① 利便さ・快適さが損なわれる	n=3
	⑦ 取り組む機会がない・該当しない	n=2

② 6件	② アイドリングや急発進をしないなどのエコドライブを実践している	
	⑨ 理由はない・特に気にかけていない	n=4

↑「取り組んでいない」又は「どちらかといえば取り組んでいない」と回答した件数

53件	③ 自転車や公共交通機関を積極的に利用している	
	⑦ 取り組む機会がない・該当しない	n=21
	① 利便さ・快適さが損なわれる	n=9
	⑨ 理由はない・特に気にかけていない	n=9
	④ 手間や時間がかかる	n=6

72件	④ ノーマイカー運動(従業員のマイカー出退動を控える運動)に取り組んでいる	
	⑦ 取り組む機会がない・該当しない	n=26
	① 利便さ・快適さが損なわれる	n=12
	⑨ 理由はない・特に気にかけていない	n=12
	② 従業員の理解・協力が得られない	n=5

90件	⑤ 太陽光発電など、再生可能エネルギーを導入・活用している	
	③ 費用がかかる	n=33
	⑦ 取り組む機会がない・該当しない	n=22
	⑧ 方法がわからない・情報や知識が足りない	n=7

88件	⑥ 廃熱などの余剰エネルギーを利用している	
	⑦ 取り組む機会がない・該当しない	n=35
	⑨ 理由はない・特に気にかけていない	n=16
	③ 費用がかかる	n=14

25件	⑦ 電化製品や機器は省資源・省エネルギー型のものを導入している	
	⑦ 取り組む機会がない・該当しない	n=7
	⑨ 理由はない・特に気にかけていない	n=9
	③ 費用がかかる	n=5

62件	⑧ ハイブリッドカーなどの低公害車を導入している	
	③ 費用がかかる	n=25
	⑨ 理由はない・特に気にかけていない	n=19
	⑦ 取り組む機会がない・該当しない	n=11

取組内容	集計	取組状況					取り組まない理由										
		① 取り組んでいる	② どちらかといえど取り組んでいる	③ どちらかといえど取り組んでいない	④ 取り組んでいない	⑤ 無回答	① 利便さ・快適さが損なわれる	② 従業員の理解・協力が得られない	③ 費用がかかる	④ 手間や時間がかかる	⑤ 利益につながらない	⑥ 効果に疑問がある	⑦ 取り組む機会がない・該当しない	⑧ 情報や知識が足りない	⑨ 理由はない・特に気にかけていない	⑩ その他	
① 冷暖房の適温設定や不要な照明の消灯など、節電を心がけている	割合	60.7%	29.9%	3.4%	2.6%	3.4%											
	件数	71	35	4	3	4	3					1	2			1	
② アイドリングや急発進をしないなどのエコドライブを実践している	割合	53.8%	33.3%	2.6%	5.1%	5.1%											
	件数	63	39	3	6	6						2				4	
③ 自転車や公共交通機関を積極的に利用している	割合	14.5%	20.5%	23.1%	34.2%	7.7%											
	件数	17	24	27	40	9	9	1		6		3	21			9	4
④ ノーマイカー運動(従業員のマイカー出退動を控える運動)に取り組んでいる	割合	4.3%	11.1%	13.7%	59.8%	11.1%											
	件数	5	13	16	70	13	12	5		3		3	26			12	11
⑤ 太陽光発電など、再生可能エネルギーを導入・活用している	割合	4.3%	0.0%	0.9%	85.5%	9.4%											
	件数	5	0	1	100	11			33			6	22	7	16		6
⑥ 廃熱などの余剰エネルギーを利用している	割合	4.3%	0.0%	0.0%	85.5%	10.3%											
	件数	5	0	0	100	12			14		1	4	35	10	16		8
⑦ 電化製品や機器は省資源・省エネルギー型のものを導入している	割合	63.2%	0.0%	0.9%	29.1%	6.8%											
	件数	74	0	1	34	8			5	1			7	1	9		2
⑧ ハイブリッドカーなどの低公害車を導入している	割合	25.6%	0.0%	2.6%	64.1%	7.7%											
	件数	30	0	3	75	9		1	25				11		19		6

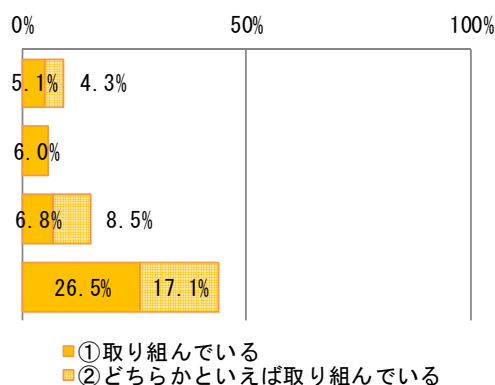
問6 行動指針に基づく取組状況 【その他の対策】

- ◆ 「①環境マネジメント等認証の取得」は、回答事業所の経営規模が小さいこともあって、ほとんどの事業所で取り組んでいない。
- ◆ SDGsに取り組まない理由の1/4は「⑧方法が分からない・情報や知識が足りない」と回答しており、より一層の情報発信、普及啓発活動を進めていく必要が感じられる。

◆ 取組状況

①	ISO14001やエコアクション21、KESなどの環境マネジメントシステム（※）等認証を取得（登録）している
②	SDGs（※）の推進に取り組んでいる
③	農用地や山林、野生生物の生息地等の保全に取り組んでいる
④	光害対策として、必要以上の照明設備は設置しない、カーテン等で光を漏らさないなどの取組を行っている

※環境マネジメントシステム：法令などの規制基準の順守や環境保全のための計画と実行手順等
 ※SDGs：国連が定めた持続可能な開発目標



◆ 取り組まない理由（上位3つ）

83件	① ISO14001やエコアクション21、KESなどの環境マネジメントシステム等認証を取得（登録）している	
	⑦ 取り組む機会がない・該当しない	n=32
	⑧ 方法がわからない・情報や知識が足りない	n=19

86件	② SDGsの推進に取り組んでいる	
	⑦ 取り組む機会がない・該当しない	n=35
	⑧ 方法がわからない・情報や知識が足りない	n=22

↑「取り組んでいない」又は「どちらかといえば取り組んでいない」と回答した件数

76件	③ 農用地や山林、野生生物の生息地等の保全に取り組んでいる	
	⑦ 取り組む機会がない・該当しない	n=40
	⑨ 理由はない・特に気にかけていない	n=18

50件	④ 光害対策として、必要以上の照明設備は設置しない、カーテン等で光を漏らさないなどの取組を行っている	
	⑦ 取り組む機会がない・該当しない	n=25
	⑧ 方法がわからない・情報や知識が足りない	n=4

取組内容	集計	取組状況					取組まない理由													
		① 取り組んでいる	② どちらかといえ取り組んでいる	③ どちらかといえ取り組んでいない	④ 取り組んでいない	⑤ 無回答	① 利便さ・快適さが損なわれる	② 従業員の理解・協力が得られない	③ 費用がかかる	④ 手間や時間がかかる	⑤ 利益につながらない	⑥ 必要だと思わない・効果に疑問がある	⑦ 取り組む機会がない・該当しない	⑧ 情報や知識が足りない・方法がわからない	⑨ 理由はない・特に気にしていない	⑩ その他				
① ISO14001やエコアクション21、KESなどの環境マネジメントシステム等認証を取得（登録）している	割合	5.1%	4.3%	3.4%	76.1%	11.1%														
	件数	6	5	4	89	13		1	3	6		2	32	19	15					5
② SDGsの推進に取り組んでいる	割合	6.0%	0.0%	4.3%	76.9%	12.8%														
	件数	7	0	5	90	15			3	4	1	1	35	22	15					5
③ 農用地や山林、野生生物の生息地等の保全に取り組んでいる	割合	6.8%	8.5%	5.1%	67.5%	12.0%														
	件数	8	10	6	79	14						2	40	10	18					6
④ 光害対策として、必要以上の照明設備は設置しない、カーテン等で光を漏らさないなどの取組を行っている	割合	26.5%	17.1%	6.0%	41.0%	9.4%														
	件数	31	20	7	48	11						3	25	4	13					5

問7 市に期待する施策

- ◆ 「①環境負荷を減らす設備導入に対する補助」が「総合（平均点）」「総合（件数）」「1番目に進める施策」において最も数値が高いことから、最も求められている施策であると考えられる。
- ◆ 「②取組事例やガイドライン、関係法令等の情報提供」は、「総合（平均点）」「総合（件数）」ともに高く、多くの事業所に求められており、かつ優先度の高い施策と思われる。
- ◆ 一方で、「⑦取組みを促すための制度や仕組みづくり」「⑩市民意識を高めるための環境教育・普及啓発」は「総合（件数）」が多いことから、多くの事業所から実施を求められているが、「総合（平均点）」がともに低いことから、優先順は低いと考えられる。

※総合（平均点）は、「1番目に進める施策（5点）」、「2番目に進める施策（3点）」、「3番目に進める施策（1点）」として集計したものの平均値を点数として集計しています。

※総合（件数）は、「1番目に進める施策」、「2番目に進める施策」、「3番目に進める施策」それぞれに回答した件数の合計を集計しています。

- | | |
|---------------------|--------------------------|
| ①環境負荷を減らす設備導入に対する助成 | ②取組事例やガイドライン、関係法令等の情報提供 |
| ③事業者の取組事例等の情報発信 | ④研究・学習・活動のための施設整備や拠点づくり |
| ⑤事業者や社員向けの研修会の開催 | ⑥監視体制や規制の強化 |
| ⑦取組を促すための制度や仕組み作り | ⑧自然資源を活用した都市間交流や働きかけ |
| ⑨地下水や地球環境などの調査研究 | ⑩市民意識を高めるための環境教育・普及啓発の実施 |
| ⑩その他 | |

◆ ランキング

総合（平均点）		総合（件数）	
① 環境負荷を減らす設備導入に対する助成	3.90	① 環境負荷を減らす設備導入に対する助成	58
② 取組事例やガイドライン、関係法令等の情報提供	3.57	⑦ 取組を促すための制度や仕組みづくり	48
⑨ 地下水や地球環境などの調査研究	3.36	⑩ 市民意識を高めるための環境教育・普及啓発の実施	46

1番目に進める施策		2番目に進める施策		3番目に進める施策	
① 環境負荷を減らす設備導入に対する助成	34.2%	② 取組事例やガイドライン、関係法令等の情報提供	22.2%	⑩ 市民意識を高めるための環境教育・普及啓発の実施	20.5%
② 取組事例やガイドライン、関係法令等の情報提供	12.0%	⑦ 取組を促すための制度や仕組みづくり	21.4%	⑦ 取組を促すための制度や仕組みづくり	14.5%
⑩ 市民意識を高めるための環境教育・普及啓発の実施	9.4%	⑩ 市民意識を高めるための環境教育・普及啓発の実施	9.4%	③ 事業者の取組事例等の情報発信	12.0%

施策	総合 (平均点)		1 番 目		2 番 目		三 番 目	
	点数	件数	割合	件数	割合	件数	割合	件数
① 環境負荷を減らす設備導入に対する助成	3.90	58	34.2%	40	3.4%	4	12.0%	14
② 取組事例やガイドライン、関係法令等の情報提供	3.57	42	12.0%	14	22.2%	26	1.7%	2
③ 事業者の取組事例等の情報発信	2.48	31	5.1%	6	9.4%	11	12.0%	14
④ 研究・学習・活動のための施設整備や拠点づくり	2.83	12	2.6%	3	4.3%	5	3.4%	4
⑤ 事業者や社員向けの研修会の開催	3.17	12	3.4%	4	4.3%	5	2.6%	3
⑥ 監視体制や規制の強化	3.31	13	5.1%	6	2.6%	3	3.4%	4
⑦ 取組を促すための制度や仕組みづくり	2.54	48	5.1%	6	21.4%	25	14.5%	17
⑧ 自然資源を活用した都市間交流や働きかけ	3.00	20	6.0%	7	5.1%	6	6.0%	7
⑨ 地下水や地球環境などの調査研究	3.36	22	8.5%	10	5.1%	6	5.1%	6
⑩ 市民意識を高めるための環境教育・普及啓発の実施	2.43	46	9.4%	11	9.4%	11	20.5%	24
⑪ その他	3.00	2	0.9%	1			0.9%	1
無回答			7.7%	9	12.8%	15	17.9%	21
合 計				117		117		117

その他、自由回答

各事業所で取り組んでいる「ごみ減量」や「地球温暖化防止」の事例や、大野市の環境をより良いものとするため、日頃感じていることなどを自由に記入。

◆ 各事業所で取り組んでいる「ごみ減量」や「地球温暖化防止」などの事例

公害の防止（水質汚濁・大気汚染・不法投棄・ポイ捨てほか）	
・私たちは会社（有）にはなっていないでもアルバイトもいないので一人の事業主は全部仕事しながらはなかなか会社などに行けないし・・・一般市民なので自分自身で燃料、電気料は気を付けています。得意先様の言うことは絶対に聞かなければならないので特に労働時間やごみ、車の点検などは昔と違い厳しくなり、作業で出てくるごみなどは撤収しています。	（運輸・通信業：1～9名）
・使用する重機（バックホウ等）はすべて排ガス規制（環境対策）型を導入・使用している。	（建設業：1～9名）
資源及びエネルギーの有効利用（自然エネルギーの利用・省資源、省エネルギーの推進ほか）	
・暖房は電気や灯油を使用せず薪ストーブにしている。費用は今のところ削減できている。環境にも良いと思っ	（卸売り・小売業・飲食店：1～9名）
・工場用の「暖房に廃油ストーブ（自家製）を使用している。燃料代が節約できている。	（サービス業：1～9名）
・今の照明はLEDに。電気代が3～4割減に	（卸売り・小売業・飲食店：1～9名）
・昔の反射ストーブをわざわざ購入しました。電気を使わなくても灯油だけで使用できる。地震や停電時災害時にお湯も沸かせることができ、暖をとれるため、重宝。電気代が削減？	（サービス業：1～9名）
・以前より8台あった機械を5台に少なくした所（200V使用）。基本料金が年間130,000円削減できました。	（製造業：1～9名）
・何かとこまめに節電、節水、節エネルギーをしています。	（製造業：10～29名）
廃棄物の減量及びリサイクルの推進（廃棄物の減量・リサイクルの推進ほか）	
・リサイクルできるものはごみとして出さないようにしている。トレー1個でも回収箱へ持っていくこと。包装の簡単なものにする。買い物は必ず袋をもって行って、レジ袋はもらはない。	（卸売り・小売業・飲食店：1～9名）
・廃棄を減らすよう食べきれない量の提供をする。	（卸売り・小売業・飲食店：50～99名）
・造園での剪定作業は枝葉ごみが発生するが、チップ化して土化する事でごみが減る。むしろリサイクルとしての堆肥にもなる。専門業者へ出すのではなく、これを自社で取り組んでいる。	（建設業：1～9名）
・なるべくペーパーレス化を促進している。プリンターのインクもリサイクルしている。	（サービス業：1～9名）
・スプレー缶は使用しない。広告の裏面をメモ長に使う。必要最小限の買い物をする。	（サービス業：1～9名）
・廃品回収等に積極的に参加	（卸売り・小売業・飲食店：1～9名）
・業務用を使用するシンナーを再生機により再利用している（使用量が1/3以下に減少）	（卸売り・小売業・飲食店：100～199名）
・織物関係の仕事で出てくる糸くず、紙管、ビニール袋等分別してリサイクル業者に回収してもらっている。	（製造業：1～9名）
地球環境の保全（地球温暖化の防止ほか）	
・営業等に使用する車をハイブリッド化して燃費を大幅に削減できた。	（卸売り・小売業・飲食店：1～9名）
・全ての暖房、冷房を電気に頼っていると地球破壊につながるの、なるべく自然環境から取り入れられたらと思います。	（サービス業：1～9名）
・水銀灯などの問題、電気コストの低減のため、すべてLEDにすることで、年間の電気代を下げること。作業性の向上、LEDの寿命が長いことでライト部品の削減につながっている。	（サービス業：1～9名）
・ハイブリッド車、電気自動車への入替	（サービス業：10～29名）
・エアコンは極力さけて冬はストーブ等、夏は扇風機等でやっている。エアコンは設定温度にも気を付けている。	（製造業：1～9名）

◆ その他、大野市の環境をより良いものとするため、日頃感じていること

公害の防止（水質汚濁・大気汚染・不法投棄・ポイ捨てほか）	
・下水道等、全戸加入に力を入れてほしい。	
・	
いつもお世話になります。今時にこんなことを言っているには遅すぎるのですが、我が家の生活排水はそのまま背割排水溝に流れます。その小さな川は水量が少なくて暑くなると臭い。草など発生し観光客にもマイナスイメージです。別問題ではありますが、大野は名水の町とするなら、もっとその様になったらと思います。昔のような流れのある川を再現するとか、又、新堀川も梅花藻をもっと増やしてきれいな川にするとか・・・。長く住みたくなる大野になったらいいですね。希望的お願いを書きました。すみません！	
・水と空気。特に水質汚染は大事	
・合併浄化槽の法定点検等の事業所だけでなく個人宅など必要性の周知を積極的に行ってほしい。水質保全是最短ではないかと思ひます。水路工事をおこなうと家庭からの汚水などの流出を感じています。	
・水は無料なものといった認識からか下水が通っても接続しない。下水道は義務と市職員の方が上水道の話に回ってこられた時に言っておられたが、その義務化による働きかけが無いように思う。当事業所のように下水に接続していると「つなぐものはバカだ」とか「儲かっている」とか言われて嫌な思いをしたことが幾度とある。	
・大野市内の完全下水道課を早く	
・	
カラスによるフンの町中の汚染がひどいと思われます。どうにかしてほしいです。ごみ収集の日もごみを食い散らかします。	
・毎朝、会社前の道路等掃除していますが、皆がすることで大野の町の美化につながるのではないかと願っています。	

良好な景観形成及び歴史的・文化的遺産の保存（良好な景観形成・歴史的・文化的遺産の保存ほか）

- ・所有者に強くいて古い空き家は処理してくだ愛。町の風景がこわされる。いくら街に立派な施設ができて映えないです。
- ・空き家がかなり目立つ街中です。法の規制もあるでしょうが新しい建物を建てるのでなく古い建物を処分したり、再利用できるように美化に力を入れてほしい。市役所裏の建設作業跡地は不気味にも感じ、広い敷地だけに有効利用できそうである。

廃棄物の減量及びリサイクルの推進（廃棄物の減量・リサイクルの推進ほか）

- ・生ごみを減らす
- ・大野市には山林がたくさんあり、また、岐阜県に抜ける道があるため不法投棄の温床の場所になっている。福井県には産業廃棄物処分場が公共、民間ともに少なくそういったことが原因の一つになっていると思う。そのような施設はみんなが必要と思っても自分の資格にはいないばかりです。きちんとしたルール、法律の下でそのような施設、場所を運営すれば環境は守れるはず。民間からそのような話があれば市として積極的に相談に乗ってほしいと思います。
- ・配布される紙の減量（特に必要と思われない資料の配布をやめる）
- ・再利用できない糸くず（レーヨン、アセテート等）の引き取る業者が市内外に少なく、処分に困っている。（とてもです）。処分してくれる産廃業者を教えてください。
- ・自分の環境をよくするため、ごみは販売店に持ってきて置いて行く。市のごみ回収にしても、規制が厳しくて出しにくい。回収については、もっと緩くして回収することを第一に考えてほしい。本来はこんな設問をする前に行政が「こうしたい」というストーリーを考えて、市民に協力を得るようにすればよい。あまり環境とか地球温暖化とかを深く考えていないのに意見を求められても。

総合的な環境対策（情報提供・環境教育と学習の推進ほか）

- ・環境をより良いものとするためには、もちろん事業所の意識も必要だが、個人一人ひとりの意識改革が必要です。この度のコロナ騒ぎでマクドナルドなどのテイクアウトをいつもより頻繁に使ったが、その出てくるごみの量に唖然とした。エコ、サステイナブル以前の問題。日常生活においてプラスチックごみを出しすぎです。コロナは環境のことを真剣に考えず、おのれの無制限な欲望追及に「ちょっと待った」をかけたものかもしれません。市民一人一人が人間としての生き方を見直すタイミングなのかもしれません。
- ・SDGsは理解しにくいので何かスローガ的にするのはどうでしょう。(S)自然を(D)大事に(G)…みたいな感じで。環境基本計画策定にあたりなにか目をひく花火はないですかね。「星ふる街」全国1位みたいな…。環境に目を向けていただくチャンスになると思うので。ごみ有料化検討開始とかもあるかも。

その他

- ・冬になると用水路には水が止まってしまい地下水を流さないと困ります。七間のように道の中心に水を出していただくとよいのでは。家の前には硬い雪がドサツとおかれて腰と身体が痛みます。このようなことを解決していかないと若者が去っていくのだと考えております。市役所中心に皆様で考えていくとよいのではないのでしょうか。第一に若者離れを考えていきたいと思っています。
- ・昔は市の役員が体を動かして市民のために尽くしてくださいましたが、役所もなかなか今は動いてくれません。私たちもだんだん年を取っていくので若い役員さんは頑張っていたらと思います。
- ・他の市町村と比べるとちょっとさびしいです。産業は減っていき、若い人は出ていき、企業がないので私共も不安定です。特に今年はコロナウィルスのため、何もできなかった。商売にしても皆がニコニコと山でも川でも行って観光の場と広げ、企業に来てもらえたら働場所もできると思う。
- ・大野市のこれからの基本計画に少なからず協力できることは気にかけていないことでした。こういったアンケート調査等は大野の未来において多いにやっていただきたいです。全国平均化していく町作りにおいて、大野人の目立ちたがらない性格上、大野特有、独特の発信はかなりの埋もれている気はします。大野市役所のプレーンの皆様、こういったアンケート調査等、仕掛けづくりを考えることが大事なことのような気がします。未来の大野市民が幸福でありますようよろしくお願いいたします。
- ・真冬はせつかくある川に水を流すことを考えてほしい。川があるのに水がないため使用できない。雪を入れられない。我が家の前の川は1月は真冬になるとよく水が止まってしまって流れない。
- ・市内は高齢者ばかりの家庭ばかりといってもよいくらいの状態になってきた感が致し、私のその中の一人が現在89歳で家内は現在入院中であつ廃業してもいいこの頃です。考えることはマイナスなことばかりで困ってしまいます。アンケートにこたえる協力的なことでもできない現在の状況をお許しください。我々の時代は終わり若い方々の明るい希望あふれる大野の実現を期待したい。
- ・排水溝は冬には、冬は玄関前の雪を入れるには大切なもので、完全にふたをするわけにはいかないため、夏の臭いにおい問題を解決することは困難である。解決には何といても下水システムの100%化しがなく、個々には多額の費用が足かせになりなかなか進まない。これに対する補助金等の支援がもっと拡充することを希望するものである。